

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT  
2021.5. VOL.45

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 医学研究科長就任のご挨拶

本年度4月より医学研究科長・医学部長を拝命いたしました高橋智です。医学研究科のさらなる発展のために尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

医学部教育においては、2020年に適合認定を受けた医学教育分野別評価における課題についての改革を確実に進めていき、学部生に対する医学教育システムの整備・充実を図ってまいります。また研究面では、大学の生命線である特色ある研究をさらに推進するために環境整備を実施すると同時に、社会に向けた研究成果の発信・還元を促進していきます。

この4月から名古屋市立東部・西部医療センターが医学部附属病院となり、市立大学病院を含む3病院あわせて約1,800床を擁する大学病院群となりました。今後はこれら2つの医療センターが医学部附属病院にふさわしい姿に変わるよう教育、研究面で支援し、充実させてまいります。

今回の大学病院化に伴い、大学憲章に基づいて3病院それぞれの理念・基本方針が新たに策定されました。各病院の特長を生かした内容が謳われており、一体化、連帯感を持って地域医療に貢献し、医療人育成に邁進していきます。

何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



医学研究科長 高橋 智

## 大学憲章(大学病院)

### 安全で開かれた医療の提供

私たちは、名古屋都市圏の中核医療機関として、他の医療機関との協力・連携を推進し、安全で開かれた最高水準の医療を提供するとともに、医学の進歩と新たな医療の確立に邁進します。

### 質の高い医療人の育成

私たちは、日々進歩する医療に対応できる専門教育の充実を図り、常に高い倫理観を持ち、温かく信頼される「学び続ける医療人」を育成します。

## 理念・基本方針

	東部医療センター	西部医療センター	市立大学病院
理念	安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します	地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します	地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、高い専門性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します
基本方針	<ul style="list-style-type: none"><li>●心臓血管・脳血管疾患などに対する高度・専門医療の充実を努めます</li><li>●救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします</li><li>●第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします</li><li>●地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します</li><li>●医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します</li><li>●がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実を努めます</li><li>●地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します</li><li>●充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します</li><li>●医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●名古屋都市圏の中核医療機関として、高度先進かつ先端医療を提供し、市民の健康と福祉を増進します</li><li>●高度情報化のもとに開かれた医療を提供し、情報公開と医療安全に努めます</li><li>●救急・災害医療センターを開設し、救急・災害医療機能を強化します</li><li>●医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します</li><li>●優れた医学研究の推進を通じて、社会に貢献します</li></ul>

## “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

病院長就任のご挨拶

名古屋市立大学病院 病院長 間瀬 光人

このたび、令和3年4月1日より病院長を拝命いたしました間瀬光人です。診療科は脳神経外科です。皆様のご協力のもと、当院のさらなる発展のために一生懸命努力する所存です。何卒よろしくお願いたします。

さて現在、昨年より続く新型コロナウイルス感染症へは病院一丸となって全力で対応しておりますが、通常診療(救急医療含む)も制限しない方針を貫いています。それは通常疾患の診療も新型コロナウイルス感染症対応と同様に重要であり、両立させることこそが名古屋市民の健康・福祉のために必須であり、我々の使命と考えているからです。

4月より東部医療センターと西部医療センターが大学病院化されました。3病院が密接に連携し、機能分化した高度で安全な医療の提供や医療人材育成、さらにスケールメリットを活かした研究活動を行うことが重要と考えています。

現在進行中の救急・災害医療センター(仮称)開棟準備も名古屋市立大学医学部の発展に大きく貢献します。また目前に迫った働き方改革を含めた労働環境整備も非常に大切です。これら以外にも多くの事業・課題がありますが、今後とも皆様のご支援をよろしくお願いたします。



間瀬 光人 病院長

名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 病院長 大手 信之

4月1日に名古屋市立大学医学部附属東部医療センターに病院長として着任いたしました。敷地は狭いですが、一昨年度に改築されたばかりの病院のなかは予想以上に広く、とても大きな病院と感じています。スタッフはみんな明るく前向きで、まだ着任早々の慣れない中にも将来の可能性を感じています。「断らない救急」を旨とする診療に対する姿勢は頼もしく、折しもCovid-19第4波の襲来が言われる中で、第二種感染症指定医療機関としての患者受け入れ体制の確立は迅速で、名市大東部医療センターが地域の皆様の病院、広く市民の皆様の病院であることがよく分かりました。この度の附属病院化は、病院スタッフにも、実地医家の先生方にも多少の緊張感をもって迎えられたようですが、地域に対する向き合い方は今までと何ら変わることなく、その中でさらなる高度先進医療の提供を通じて、今まで以上に地域の皆様の信頼を勝ち取り、患者さんに一番に選んでいただけるように病院のブランド化を進めたいと思っています。ご指導・ご支援の程よろしくお願申し上げます。



大手 信之 病院長

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 病院長 大原 弘隆

2021年4月、西部医療センターは『名古屋市立大学医学部附属西部医療センター』になりました。大学病院として、小児・周産期医療、がん医療、脊椎疾患治療を中心に、さらに高度かつ安全・安心な医療を市民の皆様に提供いたします。陽子線治療では、より多くの皆様に「痛みがなく、からだにやさしい」先進のがん治療を提供できるよう努めます。また、名市大病院および東部医療センターと連携して、名古屋市の明日の医療を支える人間味豊かな優れた医療人を育成してまいります。

一方、市民の皆様に寄り添う市民病院の性格を併せ持つ『地域に根差した大学病院』を理念として、地域周産期母子医療センター、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院等の地域の基幹病院としての役割もしっかりと果たしてまいります。今後、市民の皆様にさらに信頼され、愛される病院になることをめざして全力で取り組んでまいりますので、より一層のご支援をよろしくお願申し上げます。



大原 弘隆 病院長

# 01 研究&教育

Current topics in research and education

## 教 育

### 初期・専門研修プログラムについて

#### 《卒業後の医師臨床研修》

名古屋市立大学病院の初期臨床研修の特徴は50以上の病院との深く強い連携をもったプログラムであるということです。31の診療科を有する大学病院で一般臨床と最先端医療を2年間かけて学ぶ「大学病院基盤型研修プログラム」とともに、地域医療やコモディティーズ、高度医療など様々な特徴を有する連携病院と大学病院を1年ずつたすき掛けする「協力型病院連携研修プログラム」、さらに専門性に富んだ研修を行う「小児科重点研修プログラム」、「産科婦人科重点研修プログラム」の4つがあり、自分が目指す将来の医師像に合わせて選択することができます。

#### 《大学病院になった東部および西部医療センターとの連携》

東部および西部医療センターと連携し、救急医療、内科・外科などしっかりした基本領域研修を基盤に、特色ある高度医療を習得し、将来の医療・医学を支える医療人の育成を目指しています。

#### 《キャリアパス》

皆さんの健康や労務のお世話をする事務スタッフとともに、専攻医研修や大学院進学、さらに海外留学などのキャリアプランについて、若手医師から経験豊富なベテラン医師まで研修センターの教員が指導をします。

#### 《メンター制度》

2年間の研修の指導だけではなく、3年目以降の専門研修を見据えて初期研修2年目にはどのような診療科を研修しておくべきか、研修期間にはどの程度が妥当かなど具体的に初期研修から専門医研修に向けての方向性を指導します。1年次の研修医約40名には総合研修センターの教員がそれぞれ数名ずつのメンターとなって、協力型病院などで研修している研修医と連絡を取りつつ研修の進行度合いを確認します。さらに令和3年度からは2年次の研修医には、31診療科の臨床研修委員のなかからそれぞれの研修医が将来を展望するのに最も適した教員がメンターをすることになりました。

文責：総合研修センター長 林 祐太郎



総合研修センターのみなさん

### 認知機能病態学 寄附講座教授のご挨拶

この度、2021年4月1日付けで認知機能病態学寄附講座教授を拝命しました野村洋と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は2004年に東京大学薬学部を卒業、2009年に東京大学大学院薬学系研究科で博士号を取得し、その後は東京大学、アメリカ・ノースカロライナ大学チャペルヒル校、北海道大学にて神経科学、薬理学の基礎研究を行ってきました。名古屋に住むのは初めてですが、さっそく名古屋めしの虜になっています。周囲の皆さんもとても優しく、名古屋の暮らしやすさを実感しています。

認知機能病態学寄附講座では、記憶が脳の中でどうやって作られるか、記憶を思い出す時に脳では何が起きているのかを明らかにしていきます。認知症では物忘れが問題となりますが、多くの場合では記憶が消えておらず、記憶を思い出せないだけ、と考えられます。失われた過去を取り戻せるような治療のアイデアを基礎から臨床へ提唱することが目標です。皆さまのご支援の下で世界最先端の手法や技術をどんどん取り入れられる環境にあります。この恵まれた環境を生かして、誰かの後追いではなく、オリジナリティをとことん追求して新たな道を切り開くことを目指します。また人材を育てることも重要な使命です。未来の医療を担う優秀な人材を育成して参ります。これからチーム一丸となって精一杯努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



野村 洋 先生

文責：認知機能病態学寄附講座 野村 洋

教 育

大きく変更した医学部入試の実施報告

2月に実施した令和3年度入学試験から、医学部入試が大きく変更しました。主な変更点は、1)名古屋市高大接続型学校推薦入試(定員枠3名)の導入、2)学校推薦型選抜入試の定員を20名から30名(名古屋市高大接続3名を含む)へ増加、3)それに伴い一般試験入試の定員を60名へ減少、4)一般入試での二次配点比率の変更(1次:2次=550:1200への増大)、5)理科の物理・化学2科目指定、6)一般入試における面接強化、などがあります。

学校推薦型選抜では、基礎学力として国公立医学部の合格が可能なレベルであることを条件とし(第1段階選抜)、高等学校長が推薦する人材の中から論理的思考力に優れた人材を確保しました。また卒業6年後までに必ず大学又は大学病院に所属し、医学研究および臨床の場で中心となって本学をリードしていくことの確約をいただきましたので、卒前/卒後教育によって医学研究を志向し将来リーダーシップを発揮できる優秀な人材を育成していきます。

一般入試では、大学共通試験の配点が550点に対し、個別学力試験の配点を英語300数学300物理200化学200面接200の計1200点とし、二次重視としました。また面接では、複数名の面接官により適性と思考論理性等の評価を実施しました。将来、医学研究を遂行できる高い学力と論理性/社会性を兼ね備え、さらに協調性を持ってリーダーシップを発揮できる人材を求めました。

愛知県地域枠推薦入試では、人間性豊かで、自然科学だけでなく社会や文化に関する幅広い知識を持ち、将来、医学・医療の分野において地域社会に貢献する意欲のある学生の7名を、これまでに培った良質な入試法の実践によって迎え入れることができました。

文責：前入試担当副研究科長 飛田 秀樹

	選 抜	募集人員(人)	志願者(人)	倍率(倍)
令和3年度 入学者選抜 出願状況	地域枠学校推薦型選抜	7	22	3.1
	学校推薦型選抜(中部圏活躍型)	27	49	1.8
	学校推薦型選抜(名古屋市高大接続型)	3	5	1.7
	一般選抜	60	208	3.5

地域枠入試で本学部に入学者の紹介

JA愛知厚生連稲沢厚生病院産婦人科の加藤綾美と申します。2019年4月より地域枠医師として当院に赴任しております。私は、2009年に名古屋市立大学医学部に地域枠の第1期生として入学いたしました。(地域枠というのは、地域医療に従事する医師を養成するために設けられた医学部生の制度を指し、地域枠として選抜された学生は卒後、地域枠医師となります。地域枠医師は、地域間の医師偏在の解消を通じ、地域における医療提供体制を確保する役割を担っています。)

在学中は地域医療教育学の先生方のご指導の下、豊田市足助町や三河湾篠島に赴き、narrative based medicine を切り口としたフィールドワークを行いました。その土地で長く生活する住民の方々の語りに耳を傾けることを通して、浮かび上がってくる地域医療の現状と求められるニーズを捉えることができました。また、学内活動としては、地域病院や診療所などの限られた医療条件の中で患者さんに適切な診療を提供できるような医師像を目指し、総合医療に基づいた診療技術と診断推論についてご指導いただきました。

こうした学生時代の経験から、「心身の健康だけでなく人々の暮らしへの心配りも含めて医療活動であること」「地域住民の方々にとって大切なのは住み慣れた地域で安心な生活を継続すること」という学びを得ました。それはまさに自分自身の診療の軸であり、温かな患者さんとの日々の触れ合いの中でその本質を体感しています。地域医療の視点を持つには、地域で暮らす人々の生活の近くで行われている医療の現場を実際に見ることが不可欠です。学生時代に地域医療に触れる機会を与えてくださったことに感謝しています。



加藤 綾美 先生

文責：JA愛知厚生連稲沢厚生病院 産婦人科 加藤 綾美

# 01 研究&教育

Current topics in research and education

## 堀科学芸術振興財団支援による「医学研究科 研究助成」の公募・選考を実施しました

昨年秋、医学分野における研究費として公益財団法人堀科学芸術振興財団より1,000万円の寄附を頂きました。例年であれば財団が公募・選考を実施していたところ、感染症拡大の影響により、本学医学研究科が独自の基準を定めた上で公募・選考を実施して研究課題を採択し、研究費として運用させて頂く運びとなりました。そこで医学研究科では、世界へ羽ばたく研究者の輩出を目指し、次世代を担う優秀な若手研究者の研究活動を加速させるための支援を行うべく、熟考した要項に基づいて公募を実施致しました。今回は研究科内の選考ということもあり、予想を上回るご応募を頂きました。審査は研究計画書をもとに、「独創的か」「国際共同研究につながるか」「質の高い論文につながるか」といった観点により行われ、基礎・臨床系医学分野から助成対象者各5名の合計10名を選出致しました。採択された研究者にとって、この機会が今後の研究発展の契機となりますことを大いに期待致しますとともに、積極的にご応募頂きました全ての研究者の今後のご活躍をお祈り致します。

また忘れてはならないのが、今回このチャンスに恵まれたのは、過去に当財団において研究助成獲得の実績を築いて下さった先生方の功績によるものということです。皆様には日頃より外部資金獲得に向けてご尽力頂いておりますが、そうした1つひとつの積み重ねが、今日そして未来の研究に繋がっているのです。事務局からは今後も積極的に公募情報を発信して参りますので、ぜひ精力的にご応募ください!

助成対象者：澤田 雅人、田口 和己、嶋田 逸誠、富田 夏夫、志馬 寛明、中村元樹、Hossam Shawki、平野 佳男、柴田 泰宏、青山 幸平  
文責：教育研究課学術研究推進係



このたび企画から審査に至るまでご先導頂いた道川先生(前研究科長)、澤本先生(前副研究科長)と10名の助成者(以下参照)を対象に授与式を執り行いました

## 東部医療センター コロナ専用病床の開設

本年4月1日、東部医療センターに新型コロナウイルス感染症(COVID-19)専用の病床「高次ウイルス感染症センター」が開設されました。ひっ迫したコロナ病床を確保するため、名古屋市の要請で旧東病棟に22床オープンしました。名古屋市立大学が統括して東部医療センターで運用することから、市大病院と西部医療センターから24名の看護師を、また、大学から2名の医師を3週間交代で派遣していただいております。センター長を私が、副センター長を小黒千恵子名市大病院前看護部長と村井俊介医師が務めますが、本院の長谷川千尋感染症センター長にもスーパーバイザーとして指導いただいております。本年4月に一体化した市大病院と東部、西部医療センターの最初の協働事業として、スタッフ全員、One Teamとなって取り組んでいます。

受け入れ対象患者は、入院加療を要する軽症および呼吸不全を伴わない中等症Iの患者ですが、急変し重症化した場合には本院の感染症病床やICU、HCUに転床させて濃厚な治療ができるよう連携を取っています。当センターは感染が拡大した際にはCOVID-19の拠点施設として、また、収束時には他施設のCOVID-19患者を積極的に受け入れ、高度急性期病院や救急救命センターが本来の病院機能を果たせるよう機能分担することを使命としています。瑞友会の皆様にもご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

文責：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター  
高次ウイルス感染症センター長 村上 信五



村上 信五 センター長



高次ウイルス感染症センターの皆さん

## 名誉教授のご紹介

### 視覚科学分野— 小椋 祐一郎 名誉教授

小椋祐一郎教授は1980年京都大学医学部を卒業し、天理よろず相談所病院、神戸市立中央市民病院、イリノイ大学眼科留学、京都大学助教授を経て1997年に名古屋市立大学医学部教授に就任しました。

先生は網膜硝子体疾患において臨床、研究ともに常に世界のトップレベルで日本での牽引役を務めました。網脈絡膜微小循環のイメージングの研究においては、生体眼の網膜循環において白血球を画像化することに世界で初めて成功し、網脈絡膜疾患の病態解明に大きく貢献しました。また網膜硝子体への薬物送達システムの研究において大きな功績をあげました。これらの基礎研究は、近年の画像診断の進歩、分子標的薬の進歩とあわせて臨床に直結しています。

先生は優れた硝子体術者でもあり、この30年で急速に進歩した硝子体手術の基礎を築き、発展に寄与しました。その技術の高さを頼りに全国から難症例が紹介され、治療にあたりました。国内外からの研修希望者を積極的に受け入れ、教室内外に多くの後輩を育成し、長らく日本の硝子体術者の目指すところで有り続けています。

また2007年から名古屋市立大学病院長補佐、2011年から名古屋市立大学大学院医学研究科副科長、2013年から4年間の副病院長を経て、2017年から退職まで病院長を務め、医学部の発展と病院運営に貢献しました。

退職後は渡米して、サンフランシスコで客員教授として眼科領域の新薬開発の研究に携わり、さらなる眼科医療の発展に精力的に取り組む予定です。



小椋 祐一郎 名誉教授

文責：視覚科学分野 講師 加藤 亜紀

### 放射線医学分野— 芝本 雄太 名誉教授

芝本雄太先生は、昭和55年3月に京都大学医学部を卒業し、同年12月より島根医科大学助手、昭和62年4月に京都大学助手を経て、平成4年3月に京都大学講師、同年10月に助教授に昇任しました。そして、平成14年3月に名古屋市立大学放射線医学教室教授に着任し、この度名誉教授となりました。

芝本先生は永年にわたって放射線医学全般、放射線腫瘍学、放射線生物学の教育・研究に務め、特に高精度放射線治療(注:病巣部をピンポイントで照射する新しい放射線照射の技術で、定位放射線治療と強度変調放射線治療がある)の発展、粒子線治療(注:通常のX線とは異なり、陽子や炭素イオンを使った新しい放射線治療法)の普及、高精度放射線治療の生物学的基礎の確立、新しい放射線増感法の開発、低線量放射線被曝の生体への影響の解明において多大な功績を残しました。また平成24年5月より5年間は名古屋市立大学病院副院長として病院経営に尽力し、平成25年より4年間は名古屋市立大学病院総合研修センター長として初期研修医の獲得と採用後の教育に貢献しました。さらに、放射線科医師が不足している愛知県において、放射線科医師の数を著明に増加させ、放射線科医が不足する病院へ派遣することにより地域医療の発展に貢献しました。

現在は成田記念陽子線センター センター長に就任し、引き続き研究、臨床、教育、学会活動、社会貢献に活躍しています。



芝本 雄太 名誉教授

文責：放射線医学分野 助教 浦野 みすぎ

## 名誉教授のご紹介

### 医学・医療教育学分野 — 早野 順一郎 名誉教授

早野順一郎先生は、昭和55年(1980年)に名古屋市立大学医学部を卒業し、第三内科学教室に入局しました。名古屋市立大学のある瑞穂区は生まれ育った土地でもあり、先生の名古屋市立大学への深い愛着を感じます。1981年から九州大学医学部精神身体医学講座に3年間国内留学し研鑽しました。1984年には助手として名古屋市立大学医学部に復帰し、心療内科・精神科と内科(循環器)を中心とした領域で診療にあたりました。1990年に米国Duke大学メディカルセンター行動医学研究所に留学しました。医学・医療教育の分野での活動も精力的に行いました。2003年より名古屋市立大学の医学教育改革を担当し(特任教授)、2007年に医学・医療教育学分野の新設とともに教授に就任しました。診療参加型臨床実習に参加するための共用試験であるCBTとOSCEには導入段階から取り組みました。カリキュラムの企画と運営に携わり、医学生が医師としての基盤を形成する重要な役割を担ってきました。研究面では、心拍変動などの生体信号に関するデータサイエンスでは世界の最先端で活躍しています。卓越した観察力と洞察力に基づき、心拍から心臓の状況を把握し治療に結びつけるばかりではなく、睡眠障害など身体活動にも応用しました。



早野 順一郎 名誉教授

現在は、生体信号の解析を目的とした会社を設立・経営しています。ウェアラブル端末の信号処理・解析をもとにした開発により、近い将来に体調を管理し健康をサポートできるデバイスが我々の手元に届くことが期待されます。

文責：医学・医療教育学分野 講師 植田 典浩

### 循環器内科学分野 — 大手 信之 名誉教授

大手信之教授は昭和56年に名古屋市立大学を卒業し、第三内科に入局後は一貫して名古屋市立大学において臨床、研究、教育に精進しました。特に心臓機能学を専門とし、心臓カテーテル検査、心エコー、核医学を用いた多くの研究成果を上げ、平成6年からは米国Wake Forest大学William C. Little教授のもとに留学し、心不全の研究に従事しました。帰国後は心不全、特に左室駆出率保持型心不全(HFpEF)における国内のトップランナーとして活躍しています。



大手 信之 名誉教授

平成25年には心臓・腎高血圧内科学教授、そして令和元年からは講座名変更により循環器内科学教授に就任し、本院CCU(急性心臓疾患治療部)の発展、心不全や弁膜症に関するデバイス治療や心臓リハビリテーションの導入など名古屋市立大学における循環器内科学の発展に大きく貢献しました。学会活動では、日本循環器学会理事、日本心エコー図学会副理事長、および日本超音波医学会理事を歴任し、平成29年には日本心エコー図学会第28回学術集会を主催するなど、多くの心不全そして心エコー図専門医の教育に貢献したことが認められ、令和元年度に日本心エコー図学会「教育功績賞」を受賞しました。また、平成28年より名古屋市立大学病院副院長、令和元年からは院長代行として、病院経営に辣腕をふるい、経営状況を大きく改善しました。

そして令和3年4月からは、名古屋市立大学附属病院群のひとつ名古屋市立大学医学部附属東部医療センター病院長に就任し、引き続き名古屋市立大学の発展に精力的に取り組んでいます。

文責：循環器内科学分野 准教授 瀬尾 由広

### 心臓弁膜症センターが開設しました

超高齢化社会の今日、加齢による弁の硬化が原因とされる大動脈弁狭窄症をはじめ、心臓弁膜症は急増しています。心臓弁膜症に対する診断と治療は近年急速に進歩し、従来の根本的な治療であった外科手術に加えて、個々の患者に応じてカテーテル治療が可能となりました。

#### 【 診 断 】

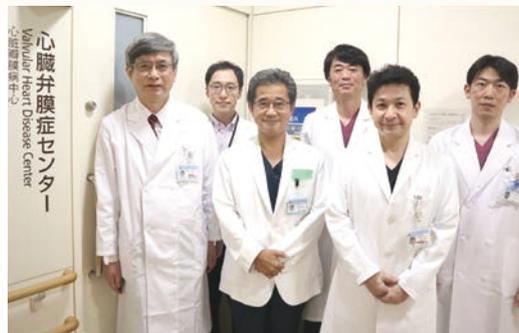
心臓弁膜症は心エコー図検査にて確実に診断可能です。当センターでは、受診当日に心エコー図の専門医が診断し、必要に応じて心臓カテーテル検査等の精密検査を行っています。その結果をもとに治療方針を決定し、一方で無症状の方のフォローアップ計画を立案し、地域の先生方と情報を共有します。

#### 【 治 療 】

当センターの瀬尾副センター長も担当している日本の弁膜症治療のガイドラインに沿って、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科からなるハートチームで協議のもと個々の患者における最適な治療法を提示します。カテーテルによる体に優しい(低侵襲)の治療にも積極的に取り組んでおり、2019年5月より高齢者の大動脈弁狭窄症に対するカテーテルによる弁置換術(TAVI)を開始し、現在まで約70例を経験しました。今後はカテーテルに用いた僧帽弁形成(MitraClip)、左心耳閉鎖(WATCHMAN)などの治療を導入予定です。一方、外科手術では可能な限り自己弁を温存する手術(弁形成)や、小切開で行う手術(MICS)にも取り組んでいます。

本センターの開設に尽力された大手信之名誉教授(現名古屋市大医学部附属東部医療センター病院長)との強固な連携のもと、名古屋市の心臓弁膜症治療の中心的存在となるべく努力して参ります。

文責：心臓弁膜症センター センター長 須田 久雄



心臓弁膜症センターのみなさん

### 抗がん剤自動調製ロボット「ChemoRo(ケモロ)®」について

本年1月、名古屋市立大学病院(東棟2階・抗がん剤調製室)に新たな抗がん剤自動調製ロボット「ChemoRo®(ケモロ)」が導入されました。当院は同様のロボットを約10年前から使用しており先駆的取り組みとして評価されてきましたが、ケモロの性能はそれを大きく上回ります。

まず、当機は従来機と比べてはるかに多種類の抗がん剤を自動で混注することが可能です。また、複数処方の連続調製が可能で、予約運転機能によって夜間自動調製を指示することもできます。さらに、薬剤ごとの比重に基づき極めて正確な秤量が可能なため、人を凌ぐ調製精度を誇ります。

抗がん剤調製でもう一つ重要であるのが、環境や医療者への曝露の問題です。ケモロは安全キャビネットと同等の抗がん剤飛散防止機能だけでなく、輸液バッグ表面への抗がん剤付着リスクを低減する機構を有しており、曝露対策にも十分配慮されています。また、輸液バッグのゴム栓穿刺位置を認識し記憶するコアリング対策機能も備えています。その結果、従来機において長年の課題であった、混注後の輸液バッグ混注口からの液漏れを回避することも可能となりました。

ケモロは曝露リスクを低減し、正確に調製された薬剤を患者さんに届けることの出来る大変優れた機器であると言えます。また、当機は薬剤師業務の効率化をもたらすと同時に、薬剤師による患者への服薬指導や症状モニタリングの充実化など、より質の高いがん医療の提供にも貢献するものと考えられます。

文責：臨床薬理学 教授 木村 和哲



### 救急・災害医療センター(仮称) 2025年度開棟へ

名古屋市立大学病院では2025年度に「救急・災害医療センター(仮称)」の開棟を目指しており、2022年の着工に向けて設計を進めています。救急・災害医療センター(仮称)は、救命救急センターの拡大・充実とともに災害時にも稼働できる設備を備えた建物となります。また、医療人の育成にも資する施設として、同敷地内の西棟にある臨床シミュレーションセンターを移転します。

さらに、救急・災害医療センター(仮称)の整備に先立ち駐車場整備も予定しており、今年度7月頃から外来診療棟北側に2層3段、駐車台数約400台の立体駐車場の建設を開始し、2022年度当初の運用開始を目指しています。2025年度の救急・災害医療センター(仮称)開棟時には、平面駐車場約100台と合わせ、合計約500台収容可能な駐車場が整備される予定となります。

これからも名古屋市立大学病院が、市民の皆様の安心・安全を守る「命の砦」となるように、よりよい病院を目指して、職員一同、邁進してまいります。

文責：事務課施設管理係



完成予想図



①立体駐車場 ②救急・災害医療センター(仮称)

### この街と未来をつないでいく。～松坂屋と名市大のコラボイベント～

名古屋で創業410年、歴史ある松坂屋と開学70周年を迎えた名古屋市立大学は、「健康で充実した幸せをおくるために」をテーマとして記念コラボレーションイベントを開催しました。

このイベントは、松坂屋にとっても地域貢献の一環として位置づけられ、本学の得意分野である医学(=健康)、松坂屋の得意分野(ミッション)である「お客様に五感の時間、体験の価値を提供すること」が上手く融合するよう、特別講演や体験コーナーの設置などを企画しました。

特別講演は、医学研究科を代表して、神経内科学 松川教授、東部医療センター 大手病院長、脳神経生理学 飛田教授がそれぞれ「認知症」や「高血圧」、「味覚」がテーマの講演で、ご来場の方の知的好奇心を湧き立たせる素晴らしい時間となりました。

その他、名市大の地域貢献をPRするパネル展示や名市大グッズの販売、特別講演の内容に関連する体験コーナー(血圧測定や認知症チェックシートの配布、サチュレーション計測等)が併設され、会場に華を添える形で大いに盛り上げることができました。

中でも体験コーナーでは、部活動MeLSC※に所属する医学部・看護学部生に全面的に協力してもらい、ご来場の方へ医学的な見地から解説することで「普段の生活にはない貴重な体験コーナー」とすることができました。学生の方にとっても日頃の勉学の成果をアウトプットする貴重な経験となったことと思います。

以上、地域貢献と教育、そして大学のブランディングを結び付けた今回の企画は、大盛況に終わりました。

改めて、大変興味深いご講演をいただいた演者の先生方、そして大活躍してくれた学生のみなさんをはじめご協力いただいたみなさんに深く感謝申し上げます。

※MeLSC - 名古屋市立大学の学生で構成され、一次救命処置など救急医学を学び広める活動を行う部活動

文責：教育研究課学術研究推進係



～医学のフロンティア・レジェンド陣から学ぶ～  
特別講演の様子



体験コーナーで力説するMeLSCの部員  
(医学部生・看護学部生)

### 文部科学省 感染症医療人材養成事業に選定されました

文部科学省において、今般の新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえ、感染症に関する高度な知識を身につけた医療人材の養成を行うための経費支援が大学改革推進等補助金として公募され、本学から申請した「名古屋市立大学 感染症医療人材養成事業」が選定されました。(申請78校中、38校が選定されました。)

本学では、人材が不足している救急・集中治療領域においてITの積極的活用とシミュレーション教育を推進し、本学と国内外の機関との連携による教育システムを構築し、高い能力を備えたグローバルな視野を持つ医療人の育成を行うこと、併せて、医・薬・看護学の医療系3学部  
の教育を充実し、高度な感染症の知識を持った医療人を養成してまいります。 文責：麻酔科学・集中治療医学分野 教授 祖父江 和哉

### 2020年度白衣授与式およびStudent Doctor認定証授与式を実施しました

2021年1月8日、病院中央診療棟3階の大ホールにて、2020年度白衣授与式およびStudent Doctor認定証授与式が行われました。

医学部同窓会「瑞友会」の山本喜通会長、道川誠医学研究科長、小椋祐一郎病院長、杉浦真弓カリキュラム企画・運営委員長、松川則之総合研修センター長より新5年生84名に、白衣とStudent Doctor認定証を授与しました。

今後、学生たちは臨床実習を通じ、診療チームの一員として、実際の医療現場における知識、技能、態度を磨いていくことになります。同窓会ロゴが刺繍された伝統の白衣に身を包み、医療人としての第一歩を踏み出した彼らのため、我々教職員もより良い学びの場を提供できるよう、努力していきたいと思っております。

文責：教育研究課医療人育成係



### 慢性疼痛人材育成事業 特別講演会を開催

2021年2月11日(木)に特別講演会を開催致しました。今回はオンライン配信で行い、慢性痛の治療に関心のある医療関係者を中心に、全国から約160名の方にご参加いただきました。

平成28年度に文部科学省「課題解決型高度医療人材育成プログラム」に採択していただいたから令和2年度までの5年間の事業総括として、成果物である慢性疼痛ケースブック発刊の紹介に始まり、いたみセンターにおける実践報告や、最新治療について発表しました。特別講演では愛知医科大学学際的痛みセンターの牛田享宏教授に、多職種チーム医療の重要性や疼痛医学の教育についてご講演いただきました。参加者の97%が内容に満足したとお答えくださいました。今後も益々各科目及び地域との連携を密にしていき、疼痛診療に対する理解と多彩な診療方法が全国に浸透していくように活動を広げたいと考えております。

文責：「慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成」事業 プロジェクト責任者 明智 龍男



### 三重北医療センターいなべ総合病院と「特定臨床研究の実施に関する相互の協力・支援に関する協定」を締結

2021年3月11日(木)に郡健二郎 理事長と相田直隆 三重北医療センターいなべ総合病院長によって、本学といなべ総合病院の「特定臨床研究の実施に関する相互の協力・支援に関する協定」の締結式が行われました。

本学といなべ市、三重県厚生農業協同組合連合会は、令和元年度に「名古屋市立大学、いなべ市、三重県厚生農業協同組合連合会寄附講座の設置に関する協定」を締結しており、これまで医師の人事交流をはじめとする連携を行ってきました。

本協定の締結によって、研究面も含めた更なる連携強化に期待すると共に、いなべ総合病院には、本院が主催する臨床研究実施セミナー、臨床研究ワークショップ等に参画してもらい、相互に臨床研究の活性化を目指します。

文責：臨床研究戦略部



# 04 お知らせ Information

## JMIPの認証を受けました

国際化社会を迎えた今日、日本に在住する外国の方や日本を訪れる外国の方を受け入れる医療機関の体制整備が求められています。一般財団法人日本医療教育財団による「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」は、多言語による診療案内や、異文化・宗教に配慮した対応など、医療機関の外国人患者の受入れに資する体制を第三者的に評価する制度です。

国際医療連携部では、本認証制度を通じて、訪日外国人、在日外国人等すべての外国人が安心して受診できるようサポートを行っております。文責：国際医療連携部

### 主な取り組み

- ◆医療通訳対応タブレットの導入
- ◆院内の案内図の多言語化
- ◆英語表記の名札と外国語対応可能スタッフの目印を作成
- ◆宗教等により制限される食事等への対応
- ◆外国語ホームページのリニューアル



## 腫瘍腎臓内科外来と電解質バスターズ

名市大病院に2021年1月、腫瘍腎臓内科外来を開設しました。目標は、癌患者さんに多い急性腎障害(急激な腎機能の悪化)の原因を見つけたうえで治療することや、もともと慢性腎臓病をもつ患者さんの癌治療に協力することです。

様々な腫瘍や抗がん剤が原因でナトリウムやカルシウムといったミネラルのバランスが崩れます(=電解質異常)。これによって、不整脈が出たり、転倒しやすくなったり、意識障害に陥ることもあります。電解質異常の早期発見のため、電解質異常がでた場合に警告を出し、腎臓内科に連絡がくる「電解質バスターズ」という電子カルテシステムを2021年5月に開始し、この新しい外来とタイアップしました。

文責：腎臓内科学分野 助教 村島 美穂

### ◆腫瘍腎臓内科の現状

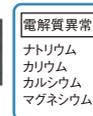
癌患者における急性腎障害発症率は10-20%前後と高い。

慢性腎臓病を併発した癌患者の率も15%前後と高い。

急性腎障害を起こした癌患者の予後は悪い。

抗癌剤が急性腎障害の一つのリスク因子となっている。

### ◆電解質バスターズ



## ロボット機器「da Vinci(ダ・ヴィンチ)」を用いた泌尿器科手術件数が1,000例を達成!

名古屋市立大学病院泌尿器科は、全国に先駆け2011年にロボット機器da Vinciを用いた手術を開始し、前立腺癌、腎癌、膀胱癌、小児先天異常とその対象疾患を拡げて参りました。そして2019年8月にはロボット手術件数が1,000例を越え、このたびこれを記念したクリスタル盾が米国Intuitive社より贈呈されました。これも中央手術部、麻酔科、診療技術部、看護部および関係部署の支えのお陰と深く感謝申し上げます。

泌尿器科のロボット手術は、現在では1,200例を超える勢いでますます増えております。わたしたちは、世界水準の技術と安全性を兼ね備えた手術を患者様に提供できるよう今後も精進して参ります。



ダ・ヴィンチ手術に携わるみなさん



クリスタル盾

文責：腎・泌尿器科学分野 准教授 岡田 淳志

## マラソンフェスティバルナゴヤ愛知2021に医療ボランティアとして参加

今年もマラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2021が3月14日(日)に開催されました。コロナ禍で開催が心配されましたが、参加走者数を例年の半分に減らし、沿道の歓声は拍手となり、救護所をはじめ、あらゆる所で体温測定、手指・物品の消毒を行い、医療スタッフ全員が感染防止防護服を装着し診療にあたるという、例年以上に徹底した体制で行われました。

このフェスティバルには毎年、医療ボランティアとして救命救急センターを中心に有志が参加しています。今年は救命センターの医師・看護師・診療放射線技師の3名を「名市大救命医療チーム」として、名古屋市博物館に設置した救護所を拠点に開業医の先生方とともに救護活動を致しました。幸い天気にも恵まれ、担当救護所は軽傷者数名のみで無事終了となりました。病院前救護という、通常診療では得られない貴重な経験をさせて頂き、医の原点を見た気がいたしました。来年はみなさまも一緒にいかがでしょうか。

文責：名古屋市立大学病院救命救急センター 病院助教 坪内 希親



### 卒業式・入学式が行われました

2021年3月24日(水)に名古屋国際会議場センチュリーホールにて名古屋市立大学卒業式、4月5日(水)には同会場にて入学式が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症のため開催が危ぶまれましたが、学生のみ出席という形で開催することができました。卒業式では、102名の医学部卒業生が医師としての第一歩を踏み出しました。会場にはスーツ・袴に身を包んだ卒業生が集い、コロナ禍の不安を吹き飛ばすような華やかな式となりました。久しぶりに再会する仲間との時間を楽しみ、これまでの6年間で共に懐かしむことができたのではないのでしょうか。

一方、入学式では満開の桜のもと新たに97名が入学しました。初々しい新入生からは期待と不安が入り混じった表情が感じられましたが、若々しいエネルギーに満ち溢れていました。人とのつながりが希薄になりがちな今だからこそ、仲間と共に切磋琢磨しながら立派な医師、研究者を目指して欲しいと感じます。

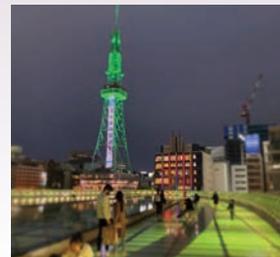
文責：教育研究課医療人育成係



### 世界緑内障週間に合わせた 名古屋テレビ塔とオアシス21のライトアップ

3月の世界緑内障週間に「ライトアップ in グリーン運動」で「40歳を過ぎたら眼科検診を!」と伝えています。名古屋市立大学病院アイセンターでは、日本緑内障学会、愛知県眼科医会、名古屋ウエストライオンズクラブのご協力のもと、2018年からこの運動に参加、4回目となる今年も、名古屋テレビ塔とオアシス21を緑色にライトアップしました。名古屋テレビ塔は2020年春まで工事中でしたので、テレビ塔とオアシス21の同時ライトアップは3年ぶりでした。生まれ変わったテレビ塔が美しい緑の光に包まれました。

文責：視覚科学分野 講師 野崎 実穂



### 医師国家試験結果について

第115回医師国家試験が2021年2月6日(土)、7日(日)に実施されました。本学は、新卒者102名のうち、101名が合格、合格率99.0%との結果となりました。全国80校の医学部・医科大学中で5位であり、昨年に引き続き愛知県の4大学では最も高い合格率となりました。医師国家試験は団体戦と言われるのですが、コロナ禍で臨床実習が中止となる等、困難の中でも同級生どうしが勉強面、精神面で支え合った結果だと思えます。

令和3年度 医師国家試験結果

第115回本学統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第114回
本学(新卒)	102	101	99.0%	97.8%
本学(既卒)	3	1	33.3%	75.0%
本学(全体)	105	102	97.1%	96.0%

第115回全国統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第114回
全国(新卒)	9,159	8,649	94.4%	94.9%
全国(全体)	9,910	9,058	91.4%	92.1%

文責：教育研究課医療人育成係



### 開学70周年記念事業への ご寄附ありがとうございました。

皆さまからの温かいご支援を承り、開学70周年記念事業として、学生会館のリニューアルや各キャンパスにおける施設整備等を実施することができました。ご寄附いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

本学の歴史を明らかにし、伝承していくため、「名古屋市立大学70年史」特設ウェブサイトを公開しました。是非ご覧ください。70年の歴史に興味をお持ちいただき、今後とも名市大をご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/70years/>



広報誌：瑞医(ずい)  
発行：〒467-8602  
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地  
TEL(052)858-7114 FAX(052)851-4801

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2021年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☒  
我こそは  
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail: [hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp)  
医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで